



海^{うみ}に生^いきる!

ウミガメの花^{はなこ}子

黒部ゆみ 写真・文

奥山隼一 監修

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所

偕成社

沖縄の海には、まるで森の中のように、
緑色であふれる場所もある。

わたしはそこで、一匹きのアオウミガメに出会った。

人なつこく、地域の人から

「花子」の愛称で親しまれている、子どものウミガメだ。

花子は、ぷかぷか浮くわたしと、じゃれあうように遊んでくれる。



花子の表情やしぐさは、とてもおもしろい。
あるときは、背中をポリポリかいたり、



泳ぎながら、
うんちをしたり……



また、あるときは、
お腹のあたりをスリスリしたり、



地元の人たちは、
そんな花子が大好きだ。



これは、アカウミガメ。

ロープが体にからまり、おそらく、
うまく泳げずに、浮上できなくなって、
おぼれて死んだんだ。もしかすると、
満月の夜に産卵にきたメスだったかもしれない。
そのあと波に流され、海岸の
波消しブロックに漂着したのだろう。

花江は運よく、ビニール袋を
ひいで払いよけたけれど、
こうして水中にただよう
プラスチック製のごみが原因となり、
様々な死に方をする生きものが
後を絶たない。



そんな人たちの努力もあって、花子たちは、この海で
のんびりとくらししていけるのかもしれない。

ウミガメたちが生きつづけられるよう、人間は地球を
いたわり、日々のくらしを見つめなおす必要がある。

地球にすむ生きもののくらしは
すべて、つながっているから。

